



阪南大学国際観光学部開設10周年記念シンポジウム 「コロナ禍の今こそ大阪観光の未来を描く」



第1弾

着地型観光の実践から 観光まちづくりを考える

阪南大学国際観光学部開設10周年を記念して、「コロナ禍の今こそ大阪観光の未来を描く」という共通テーマで、3回のシンポジウムを開催いたします。今回はその第1弾、「着地型観光の実践から観光まちづくりを考える」というテーマで行います。

コロナ禍で人の移動が国際的にも国内的にも凍り付くという未曾有の状況のなか、星野リゾートの星野佳路氏が「マイクロツーリズム」と呼ぶような、移動距離も移動時間も短い近場・近隣の観光が注目されています。阪南大学国際観光学部は開設以来、マスツーリズムに対する「もうひとつの観光」として着地型観光に注目して、着地型観光の実践から観光まちづくりを推進しようと、研究でも教育でも力を注いできました。シンポジウム第1弾では、着地型観光の実践と観光まちづくりの推進において、現場でさまざまな困難を克服しつつ、着実な成果をあげている3名をお招きし、その経験や知見を共有して、コロナ後を見据えた観光まちづくりの新たな展開を探ります。

日時：2020年10月31日（土）15：00～16：30

開会挨拶：吉村盛善（松原商工会議所会頭・松原市観光協会会長）

パネリスト：杉本 彰（松原市観光協会プロデューサー）

高村陽子（あまがさき観光局事業部長）

梅田りさ（OSAKA AID実行委員長）

コーディネータ：森重昌之（阪南大学国際観光学部長）

司会進行：松村嘉久（阪南大学国際観光学部教授）

閉会挨拶：橋本和也（観光学術学会前会長・京都文教大学名誉教授）

【主催】阪南大学国際観光学部 【後援】観光学術学会

【協力】松原商工会議所・松原市観光協会・あまがさき観光局・OSAKAあかるクラブ

【参加方法】シンポジウムはオンラインで開催いたします。ライブ聴講をご希望の方は、問い合わせ先に聴講希望のE-mailをお送りいただければ、順次登録して、ご招待いたします。また、後日録画にて聴講いただけるようネット配信する予定です。

【問い合わせ先】阪南大学国際観光学部 E-mail: tourismsym@hannan-u.ac.jp

